

「ほんとう」は、どちらなんですか

演孝

終戦直前のある村。夫達が戦時で不在の家を守る義姉妹

長女智恵は気を病み

三女恵美は義姉を気遣う毎日

次女陽子は智恵の病を疑っていた

やがて魔物が再び女たちの前に現れる。

世界は反転し、演技は見抜かれる。



企画・監督・脚本
小野寺隆一

音楽
吉田トオル

出演
藤井菜魚子

河原 幸子

広田あきほ

中野 圭

織田 稚成

金子 透

安藤 聖

樋口 真衣

大多和 麦

西本 早輝

小野寺 隆一

撮影
橋本 篤志

照明
鈴木 馨悟

録音
高島 良太

題字
豊田 利晃

絵画
宮 大也

スタイル
砂田 耕希

製作
佐久間 孝

うずめき





1945年（昭和20年）春、終戦前夜。疎開先には選ばれるような地方のある一軒の家族の中で起きる劇的な夕暮れ時を描く。大きな戦争の被害は届かなくとも、次第に物がなくなり、徐々に人が減っていく状況の中、戦地に男たちを奪われた嶋田家に嫁いだ三人の義理の姉妹の物語。

本来、家父長制の中の家長である長男の嫁、智恵は幼い子供のように振る舞い、次男の嫁、陽子はそれを演じているのではないかと疑っている。三男の嫁は少しでも明るく振る舞おうとする。「演じているのか」と問い詰めたその時、世界が反転するような報せが届く。戦争という背景、家父長制、日本人の美醜、重厚な背景を持った映画の軸となる物語とは別に、フィクションの中で役を演じる俳優たちが「演じている」「演じていない」に迫っていくメタ構造の作品。映画「演者」の演者たちがそこに存在している。それはまるで現実世界にも登場人物が存在し、観客までもがフィクションの登場人物であるかのような錯覚を喚起する。監督、出演者は2020年のコロナ禍の中、惜しまれながらも22周年公演で解散した「劇団前方公演墳」の主要メンバー。2018年に劇団の最高傑作「セブンガールズ」を映画化、公開。自主制作映画としては異例の動員を記録、現在もアンコール上映やアマゾンプライム他、オンラインメディアでの配信が続いている。その製作経験を生かして劇団の企画公演で人気だった小野寺が作・演出した短編を1から書き直し、登場人物も増やし物語の重層化をした上で映像化した。タイトルロゴとなる題字は映画監督の豊田利晃（ボルノスター、破壊の日、他）、映画音楽には、『セブンガールズ』に引き続き、吉田オール（DISCOVOLANTE）が参加、新曲を4曲書き下ろした。

～この世界に生きる全ての「ほんとう」を探している皆様が届きますように。



<https://uzumeki.com/ENJA/>

3/25 ~ 31 限定上映
特別先行上映決定

f i t @enjamovie #ENJA #映画演者

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿ドコモショップ左入ル
新宿 K's cinema
 03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

